令和６年度　　文京区立林町小学校　授業改善推進プラン

５年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語	○読むことの到達度は８６％以上となっている。自分の意見を発表することができる児童とできない児童がいる。 ○漢字の定着に差がある。 （到達度３０％～１００％）	○クラス全体での意見交換だけでなく、４、５人のグループや、気兼ねなく話せる友達となど、多様な意見交換の場を設ける。多様な意見交換の場を設けることで意見を発表するハードルを下げるとともに、自分の考えに自信がもてるようにする。 ○ミライシードのドリルパークなどを活用して定着を図る。学習した漢字を日常的に使うよう指導する。学習場面以外で作成する、掲示物にも漢字を使うよう指導する。	
社会	○世界の大陸や海洋、関わりの強い国などの位置や名称、国土の地形や気候の特色といった基本的な知識の定着度は全体的に高い傾向にあるが、全体のおよそ１割の児童については定着率が５０％程度と差が見られる。 ○資料の読み取りでは、事象を捉えることはできるが、そこから言えることを考察し、言語化できる児童は３０％程度と課題が見られる。	○授業の冒頭に地図帳を使った地名探しゲームを行い、地図の読み取りに慣れつつ、日本や世界の各地でどのような地形が広がっているのかを捉えることができるようにする。また、正解を共有する際に「○○の南西にあります。」という話形を用いてメジャーな地名に関する知識量や方位の感覚を高められるようにする。 ○資料を読み取る際の視点を以下のように具体的に示すことで、児童の資料活用の技能を高める。 例１：グラフに増減があるかないか、また同時期に他のグラフではどのような変化があるか。 例２：写真資料の人々の表情、衣服、持ち物などにどのような特徴があるか。	

理科	○知識・技能の到達率は９０％に近い水準に到達している。その一方で、思考・判断・表現の到達率は、８５％前後と知識・技能には劣っている。実験のやり方など、自分事に捉えられていない児童の様子が関係していると考えられる。	○予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力を身に付けるため、問題発見から問題づくり、そしてその問題を解決する方法を考える過程を丁寧に行い、主体的に問題を解決できるようにする。 ○「問題検証の目的自体も理解していないため、解決の方法が発想できない」児童を少なくするため、問題づくりにおいて、抽象的ではなく具体的な言葉を用いることを指導する。	
体育	○授業に臨む姿勢は、大体が良好であるが、技能について個々の差が大きい種目がある。	○授業の振り返りを行い、自分の課題を発見できるようにする。また、発見した課題をどのように改善していきたいかを考えさせる。 ○把握した自分の課題を改善するために、自分の実態に合ったものを選べるよう、多様な場を設定する。また、グループ活動を取り入れ、苦手な児童へのアドバイスなど児童同士が教え合う場を設定し、苦手な児童でも参加しやすい環境をつくる。	
総合的な学習の時間	○調べる方法がインターネット一択になっており、情報の正確性について疑問をもつことができる児童が、ほぼおらず、複数のソースを使って裏付けを試みる児童は１割もいない。また、まとめる際にホームページの情報を咀嚼して自身の言葉で表現し直すことができる児童が少なく、本人にも聞き手にも難しすぎる内容となってしまう児童が４割程度いた。	○区の図書館などと連携し、関連書籍を取り寄せたり、書籍を丁寧に読む時間を設定したりすることで、インターネット上の情報のみにならないように指導する。また、調査するときに使用する書籍やホームページを例示したり、学童向けの検索エンジンを使用させたりすることで、易しい表現で調査活動を行えるようにする。さらに、集めた情報を書き留めておくワークシートを用意し、まとめる前に複数の情報を関連付けながら作文できるように指導する。	